

株式会社サイゼリヤ 様

経営状況を多面的・網羅的に分析できるDWHによって
より戦略的なデータ活用と意志決定の迅速化を実現

導入の背景

『感覚に頼らず、科学的な根拠ある数値で判断する』という企業文化に基づき、POSや購買、生産、物流、人事・給与などの複数の情報システムを構築

店舗拡大にともなう情報増加によってデータ検索のレスポンス低下。また、情報システム分析によるデータ加工の作業負担が課題に

全社情報が集約されておらず、各部門から見たいデータについて、個別に対応(少人数の情シスにおいて、日々帳票作成に苦労)

散在データの一元管理、共通ルールに基づいた整備が必要

導入の効果

Windows®/.NETベースのシステムとしたことで操作性や開発生産性が向上

データ検索に要する時間が従来の6分の1まで短縮、加工にかかる業務負荷も大幅に低減

今後の展望

レポートのバリエーションを増やし、DWHで抽出・分析したデータを経営的な視点から有効活用

店舗でも各種分析データを閲覧できるようにし、店長や従業員の目標管理・モチベーション向上にも活用

国内外の店舗を横並びで評価できるようなシステムを構築

事例のポイント

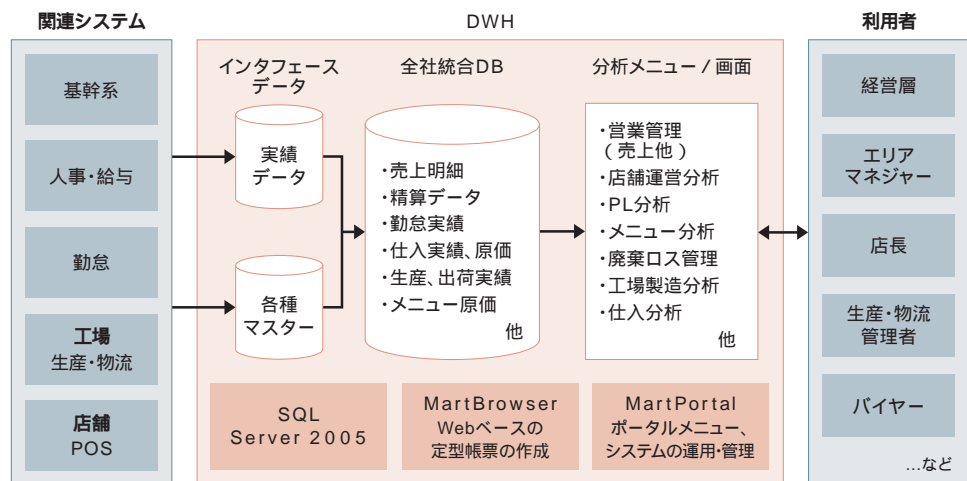
『自社での開発・運用、機能の追加・拡張が容易にできる柔軟性』『低コスト・短期間での導入』『ユーザビリティの確保』などの要望に応えるため、日本ユニシスのWindows/.NETベースのDWH構築支援ツール『MartSolution®』を活用し、使いやすさと短期開発を実現

同一の画面上で『店舗名』『期間』『項目』などの条件を切り替えるだけで欲しいデータが簡単に検索できるインタフェースを構築し、作業効率を向上。データ検索に要する時間も従来の6分の1まで短縮

分析に必要な源泉データを本社サーバに自動で集約・蓄積する仕組みを構築

日本ユニシスの豊富なWindows/.NET開発実績・DWH構築実績がお客様に安心感を提供

システム概要図



システムの概要

システム名称: データウェアハウス (DWH)

システム概要: 複数の関連システムに蓄積されているPOS情報や生産・物流情報、勤怠情報などを一元かつ効率的に管理・検索・分析するためのDWH

開発期間: 4カ月

USER PROFILE

設立: 1973年5月1日

資本金: 86億1,250万円

従業員数: 正社員1,482名
(2007年8月期・単体)
準社員5,876名
(2007年8月期・単体)

本社所在地: 埼玉県吉川市旭2番地5

事業内容: イタリア料理店「サイゼリヤ」をチェーン展開するフードサービス業

店舗数: 770店舗 (2008年6月末現在)



株式会社サイゼリヤ 様



導入の背景

積極的な店舗拡大にともなってデータ検索・加工の負担が増大

首都圏を中心に全国770店舗のレストランチェーンを展開するサイゼリヤ様は、「感覚に頼らず、科学的な根拠ある数値で判断する」という徹底したデータ活用を強みに、積極的に店舗を拡大。ここ10年で店舗数を3倍にするなど急速な成長を遂げている。

しかし、情報システムで扱うデータの量・種類が増大するなかで、情報システム部におけるデータ加工の作業負担が増加し、分析データの作成に時間を要するようになった。

「当社では、POSや購買、生産、物流、人事・給与などの情報システム単位でデータベースを構築しているため、分析データを作成しようとするたび複数のシステムから関連するデータを探し、そのうえでエクセルなどに移行してグラフ化していました。しかし、手作業でデータを抽出・加工する方法には限界を感じはじめていました」と、情報システム部 課長の杉山完二郎氏は語る。



選定理由

自由度、操作性、実績、コストのすべてにおいて評価できたMartSolution

そこで同社は、各情報システムに蓄積されているデータを一元的に管理・検索できる新しい仕組みの導入を決断。汎用パッケージソフトからオーダーメイドのシステム設計まで、さまざまな商品やベンダーの比較検討をしていった。その中で目にとまったのが、Windows/.NETベースのDWH構築支援ツールMartSolutionだった。

「魅力的だったのが、私たちでも自由にプログラミングができる自由度の高さと操作性です。また日本ユニシスのもつ実績、コスト面、開発期間にも惹かれました。.NET開発およびDWH構築に関する豊富な実績とノウハウをもっていることも大きなポイントでした。」(杉山氏)

導入の効果

データ検索、加工作業の効率が飛躍的に向上

こうしてサイゼリヤ様は2007年8月にMartSolutionの正式採用を決定、第1フェーズとして、週別の来店客数やメニュー別の売上数量などの「基本情報」をWebブラウザ上で簡単に検索できる新しい検索システムの構築に着手した。これにあたって日本ユニシスは、データベースサーバに、戦略的な情報活用とデータ分析を支援するSQL Server 2005を採用するとともに、分析に必要な源泉データを本社サーバに自動で集約・蓄積する仕組みも提案。一元管理されたデータベースから柔軟にレポート



生成できる基盤を実現した。

「データ検索に要する時間も従来の6分の1まで短縮されて作業効率も高まりました。Web検索レポートも各部門のスタッフから好評で、『今度はこんなグラフをつくってくれないか』『次はこういう帳票がほしい』といったリクエストが多く寄せられています」と情報システム部 課長の須藤政博氏は言う。

今後の展望

多面的・網羅的なデータ分析によって経営戦略の的確性・実効性を強化

「このDWHは強力な経営ツールになると思います。グラフや表など視覚的な資料も容易に作成できますし、今後もレポートのバリエーションをどんどん増やして、当社の経営状況を多面的に、網羅的に検証できるようにしていくつもりです」と話すのは、同社の取締役 経営企画部 部長である堀田康紀氏だ。今後は、店舗でも各種分析データを閲覧できるようにし、店長や従業員の目標管理・モチベーション向上にも活かしていくことを計画しているほか、将来的には海外への店舗展開も視野に入れているという。

「そのためにも日本ユニシスの積極的な提案を期待しています。」(堀田氏)



日本ユニシス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1
電話 03-5546-4111(大代表)
URL <http://www.unisys.co.jp/>
E-mail dotnet-box@unisys.co.jp

事例インタビューの全文はこちら

URL <http://www.unisys.co.jp/dotnet/casestudy.html>